

1. 今回の研修内容

- ・ 担当者会議(指導者)
- ・ 担当者会議(受講者)
- ・ モニタリング(指導者)
- ・ モニタリング(受講者)
- ・ 集中カンファレンス
- ・ 訪問診療同行
- ・ 訪問看護同行
- ・ 退院時共同指導
- ・ 他事業所所内事例検討会

2. 事例の概要

個人情報のため、事例の概要は非公開としています。

3. 気づき

- ・ 退院前カンファレンスについては、退院後に必要なサービスを確認・調整するだけでなく、在宅復帰後少しでも不安なく生活が送れるよう設備や人員が確保された入院中に試してもらうこと(今回で言えば入浴を試してみる、在宅で使用する車イスを使用し慣れてもらう)を病院に依頼していた。自分には病院に退院前の準備をしてもらうという発想が乏しかった。
- ・ 利用活用できる資源や制度の知識が少ないことを実感させられた。(難病患者等居宅生活支援事業等)
- ・ 潜在化しているニーズの把握が必要で、それを利用者や家族にも気づいてもらい解決法や対応法を提案していけるような関わりを持つことが必要である。
- ・ これは介護をする家族全ての人に言えることではあるが、より医療ニーズが高い利用者を介護する家族の負担や疲労を考え、家族にも配慮をした関わりが求められる。

4. 今後の自身の課題

- ・ 顕在化したニーズに目がいきがちで、潜在化しているニーズを把握することに時間を要している。関連の事業所と情報や意見を交換しているうちに気づくこともあるがどうしても時間がかかる。より速くそのニーズも把握できるようにアセスメントスキルを向上させる。
- ・ 一般的に基礎職が福祉系であると、医療ニーズが高い利用者への支援が苦手と言われており、実際に自身もそのように感じる部分は多少あった。今までは存在を認識していた程度で理解であった様々な制度をより理解する。

今回の研修を通して、アプローチの仕方は関わる職種により様々であり、連携を図り支援していく重要さやケアマネジャーとしての支援の内容、サービスの調整をしていく大変さを感じた。医療知識が向上したわけではないが、医療ニーズの高い利用者についての悩みや疑問を相談できる相手を見つけことができ、顔の見える関係性の第一歩を踏むことができた。初めは相談しながらにはなるが、自身に支援を任せってくれる利用者との縁があれば、ぜひ担当できれば…思った